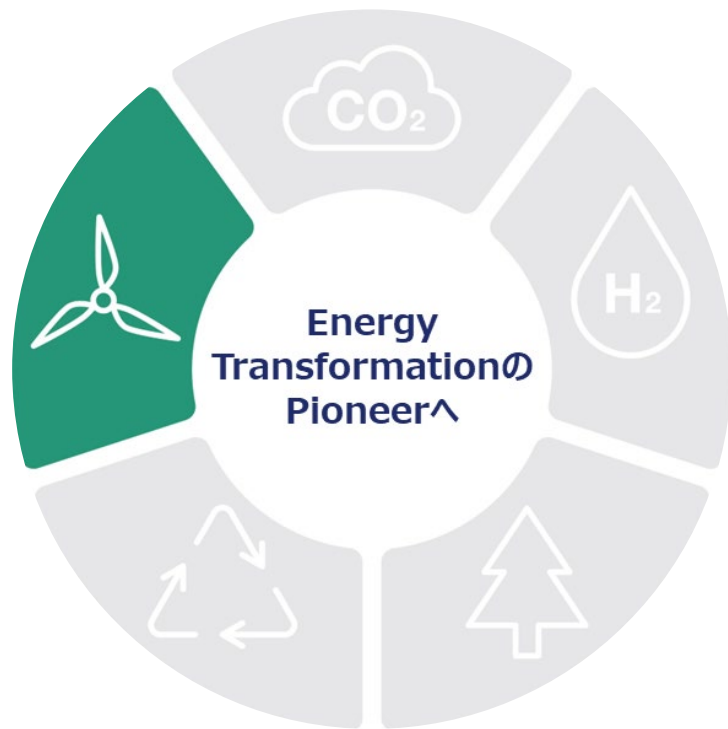


再生可能エネルギー事業

取締役副社長執行役員
再生可能エネルギー・新分野事業本部長
川野 憲二



再エネ事業全体のValue Up

コアエリアでの事業拡大

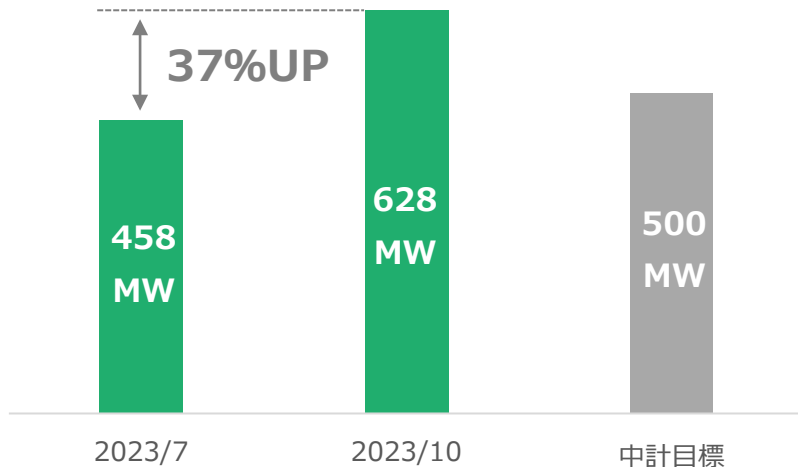
- 豪州において、再生可能エネルギー世界最大手のEnelと戦略的な協業に合意
- 再エネ電源の開発に留まらず、再エネ電力供給のバリューチェーンを構築し、当社再エネ事業の中核へ
- 事業の加速的拡大を目的に他のコアエリアでも事業のプラットフォームとなる企業のM&Aを追求

上流事業 & グリーン水素を中心とした他のネットゼロ分野とのシナジー追及

- Hywind Tampen（浮体式洋上風力発電所）を始めとする再エネを活用した上流事業の低・脱炭素化の促進
- 欧州を中心に再エネ×グリーン水素プロジェクトの参画機会を追求。将来的に再エネ事業と水素事業を統合したビジネスモデルの構築を目指す

将来の安定収益源へ
WACCを上回るROICが確保できる案件を進める

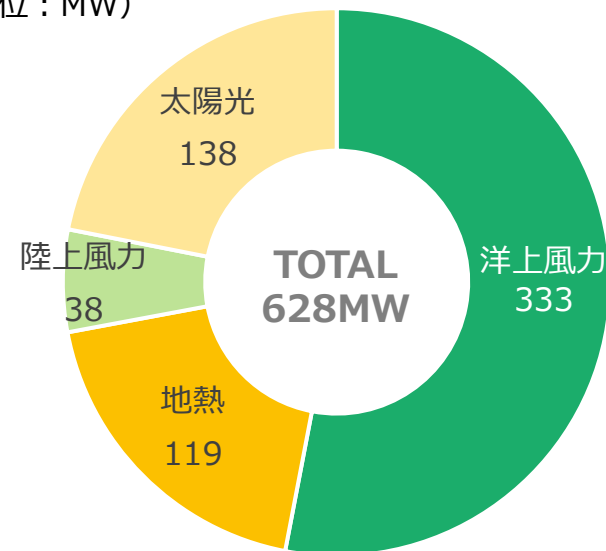
ネット発電容量推移



- 豪州Enelとの協業による発電容量の増加
- 中計目標であった500MWは達成済み

ネット発電容量内訳 (2023年10月末時点)

(単位 : MW)



- 豪州Enelとの協業を契機に、太陽光や陸上風力への関与を強化

再生可能エネルギープロジェクトの例（カッコ内は持分出力を示す）

欧州 (333MW)



インドネシア (113MW)



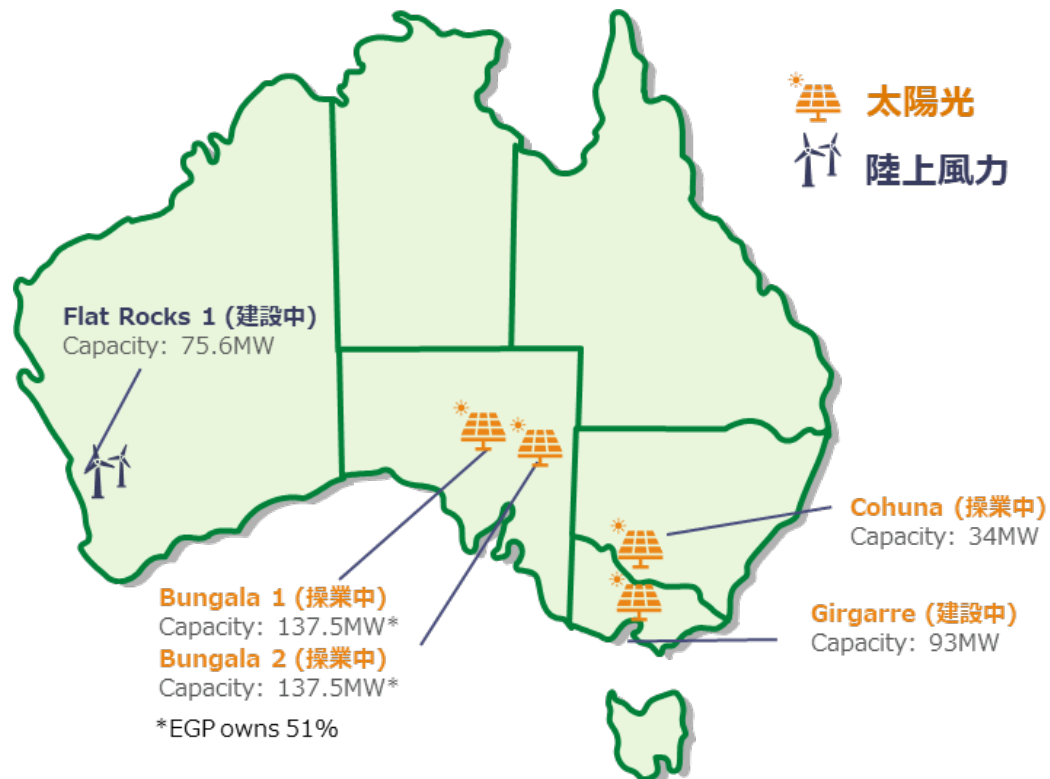
豪州 (171MW)



日本 (11MW)



EGPA保有資産



Enel Green Power社

イタリアの再エネ企業であり
同分野で世界最大手

21ヶ国
12,000ヶ所

発電容量
60GW

Enel Green Power Australia社

太陽光発電
(操業中)
計**309MW**

数GWの潜在
プロジェクトを
有する

高収益化への取組み

発電容量の拡大

- 2030年までに1千億円規模の追加投資、発電容量を2GW以上に
- 規模拡大で、資機材・サービス、人材、資金等の調達競争力を確保
- プロジェクトの効率的な運営ノウハウを蓄積し、収益性の向上を図る

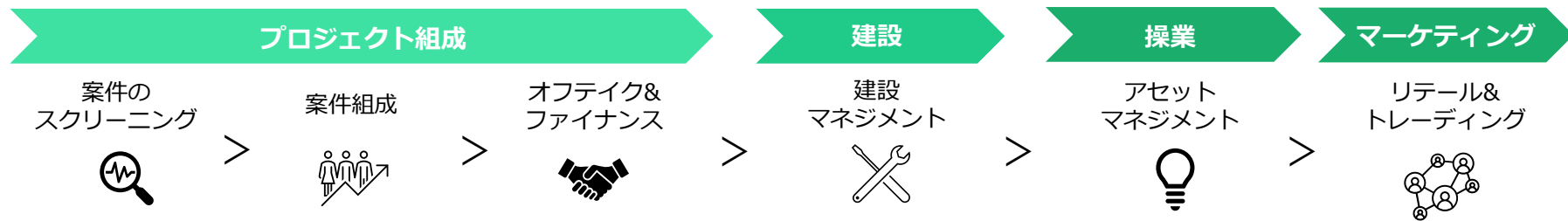
優良プロジェクトの選別

- 一定のリターン以上の優良な再エネ案件のみを選別し、投資決定

発電以外での価値向上

- Develop & Sellの追求
- 再エネ電力供給のバリューチェーンを構築。収益獲得の多層化を目指す

再エネ電力供給のバリューチェーン



プロジェクト	国名	ステータス	発電容量 (MW)	持分発電容量(MW)
INPEX メガソーラー上越	日本	稼働中	4.0	4.0
小安地熱発電	日本	建設中	15.0	6.4
五島市沖洋上風力発電	日本	建設中	16.8	-(*)
サルーラ地熱発電	インドネシア	稼働中	330.0	60.2
ムアラバ地熱発電	インドネシア	稼働中	85.0	25.5
ランタウ・ドゥダップ地熱発電	インドネシア	稼働中	98.4	26.9
ルフタダウネン洋上風力発電	オランダ	稼働中	129.0	64.5
ボルセレⅢ/Ⅳ洋上風力発電	オランダ	稼働中	731.5	109.7
モーレイイースト洋上風力発電	英国	稼働中	950.0	159.0
ブンガラ1&2太陽光発電	豪州	稼働中	275.0	70.1
コフナ太陽光発電	豪州	稼働中	34.0	17.0
ギガレ太陽光発電	豪州	建設中	93.0	46.5
フラットロック陸上風力発電	豪州	建設中	75.6	37.8
合計	-	-	2,837.3	627.6

(*) 共同事業者間の取決めにに基づき非開示。持分発電容量の合計値627.6MWには、五島市沖洋上風力発電の持分発電容量は含まれない。